

## 1 特定の児童をチームで支援する

生徒指導における個別指導には、集団指導と同様に、3つの目的があります。

### ◆成長を促す個別指導

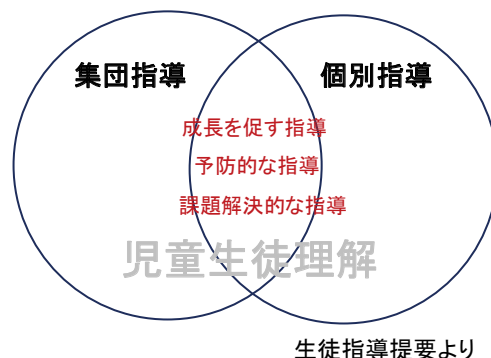
すべての児童を対象に、個性を伸ばしたり自身の成長に対する意欲を高めたりする。

### ◆予防的な個別指導

一部の児童を対象に、深刻な問題に発展しないように、初期段階で諸問題を解決する。

### ◆課題解決的な個別指導

学校生活に適応できない児童を対象に、課題解決に焦点を当てた個別指導及び支援をする。



特定の児童に対する予防的あるいは課題解決的な個別指導においては、「**チームによる支援**」が有効です。そして、チームによる支援では、コーディネーター役が必要になるとともに、「**ケース会議**」が有効です。

ケース会議では、課題のあるケースを検討し理解を深め当該児童のアセスメント（見立て）やプランニングをします。

どのケースを取り上げ、どのようなメンバー構成のチームで支援するかを検討するとともに、取組内容について教職員の共通理解を図ることが大切です。

### チームによる支援

チームによる支援とは、問題を抱える個々の児童生徒について、校内の複数の教職員やスクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカーなどがチームを編成して児童生徒を指導・援助し、また、家庭への支援も行い問題解決を行うものです。

チームによる支援には、(ア)校内の複数の教職員が連携して援助チームを編成して問題解決を行う校内連携型、(イ)学校と教育委員会、関係機関等がそれぞれの権限や専門性を生かしたネットワーク型、(ウ)学校や地域に重大な混乱を生じる事態に対して緊急対応を行う緊急支援型があります。

(生徒指導提要より)

### 【具体的な実践事例】

- 不登校の兆候が見られる児童を、複数の教職員が役割分担して支援する
- 発達障害のある児童を、特別支援教育コーディネーターを中心とするチームで支援する
- 暴力行為を繰り返す児童を、関係機関と連携したチームで支援する

### 実践事例①：ケース会議を活性化する

ある学校では、これまでは別々に行ってきた生徒指導委員会、不登校対策委員会、教育相談協議会を一体化した委員会「子ども支援委員会」を編成しています。

こうすることで、対象児童一人一人について多面的・総合的なアセスメントが可能になるとともに、支援の方向についての共通理解が一層図れるようになりました。また、学期初めや学期末といった時期や、全校児童の様子に応じて、例えば「今月は不登校対策に力を入れよう」といった協議と対策の重点化が図れるようになりました。

### ◆遅刻を繰り返す児童に対して

遅刻の繰り返しを不登校の前兆と捉え、学期初めを重点に遅刻者の指導に取り組んでいます。

#### 生徒指導部は

児童一人一人についてアセスメントし、対応策を共通理解する。

#### 全教職員は

役割を分担し合って全員で登校指導する。

#### 登校して来ない・教室に入れない時の組織的対応として

発生時対応・指導		報告・記録	事後対応
①教室入室をしぶる児童	②登校して来ない児童 (養護教諭が指示)	担任 (口頭, カード) ↓ 不登校対応教員 がデータ保管	担任 学年団 生徒指導 主事 養護教諭 SC 管理職
不登校対応教員2名 が対応・指導する。	担任が家に迎えに行く。その間、不登校対応教員が該当学級を指導する。	生徒指導主事 ↓ 管理職 ↑	

昨年度遅刻の多かった児童が、今年度は遅刻せずに登校しており、学級担任である若年教員の悩みや不安の軽減に結び付いています。

## 実践事例②：教職員の役割とかかわり方を明確にする

ある学校では、それぞれの教職員等の専門性を生かした役割の連携に努めています。

#### スクールソーシャルワーカーは

- ・定期的に本人に直接かかわる。
- ・アセスメントの結果を学級担任にフィードバックする。

#### 学級担任は

- ・本人に寄り添い不安をケアする。
- ・お互いを認め合い励まし合う学級づくりに努める。

#### 特別支援教育コーディネーターは

- ・職員会議や現職教育研修の場において、全教職員に対して、資料を用いてかかわり方の研修を行う。
  - ・行動修正だけ呼びかけてもうまくいかない。
  - ・いいところを伸ばそう。
  - ・児童の不安を感じ取り、それに寄り添おう。
  - ・大切な存在であることを伝えよう。
- ・気になる児童について情報交換とアセスメントを進め、教職員の共通理解を図る。

児童の心に寄り添ったかかわり方に変わったことで、問題行動が減少してきています。

## 効果を上げるためのチェックポイント

### ○ 情報交換に終わらせない

生徒指導委員会や不登校対策委員会等せつかく様々な協議の場を設けているにもかかわらず、「今月はこのような状況でした」という報告に終わってしまうことが少なくありません。当該児童が今後どのように変容することをめざすのか、そのためには、だれが中心となり、どのようなかかわりをしていくのかを話し合うことが大切です。

### ○ 個への寄り添い方を工夫する

ケース会議の結果、生徒指導上の課題を抱える児童が落ち着いて学校生活を送れるようにと、特定の教職員が終日にわたり当該児童のそばについて指導・助言を担当することがあります。このとき、当該児童の主体的な活動や集団とのかかわりを妨げてしまい、かえって本人のストレスを高めてしまうことがないように留意することが大切です。

## 2 保護者・関係機関や専門家と連携する

### ◆保護者との連携

児童一人一人へのよりよいかかわりを考える上で、学校と家庭との信頼関係の構築は重要です。

「学校の様子をしっかりと伝えてくれるので、家庭でも子どものがんばりを応援できる」

「家庭の事情をよく分かってくれていて様々な配慮をしてくれるので、家庭にあった形で子どもを伸ばすことができる」

そう感じてくれている保護者との間にはおのずと信頼関係が生まれてくるものです。すべての学級でこうした関係を築くために、学校全体としての工夫を考えていくことが大切です。

### 親と子、教員と児童生徒の「絆」の大切さ

少年非行の防止を考える上で、逆にどうして多くの児童生徒が非行に走らないのかについて考えてみることに役立ちます。…(中略)…学校に居場所がある、などが考えられますが、そこには、児童生徒と家庭や学校とをしっかりとつなぎとめる「絆」があります。他方、非行に走る児童生徒は、家庭や学校との「絆」がない、又は、切れかかっていると言えます。家庭や学校で非行を未然に防止する秘訣は何かと問われれば、児童生徒と家庭や学校との「絆」をどのようにしたら強く切れないものにするかということに尽きると言えます。…(中略)…

したがって、保護者や教員にとって何よりも大切なのは、「我が子」「我が児童生徒」という意識で、愛情を持って児童生徒としっかりとつながっていくことです。…(中略)…次に、家庭や学校で児童生徒が打ち込める対象を一緒に探し出し提供することです。

(生徒指導提要より)

### ◆関係機関や専門家との連携

問題行動の要因や背景は多様化・複雑化しています。児童に問題行動の兆候が見られた場合や、実際に問題行動等が生じた場合に、事態を悪化させないためには学級担任だけで対応できるのか、チームを編成するならばどのようなメンバー構成にすべきかを、的確に判断することが必要になります。

このとき、教職員だけで対応しなければならないという限定的な考え方にとらわれず、多様な人材を柔軟に活用する姿勢が大切です。スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカー、相談員や支援員を有効に活用することが望まれます。豊富な経験を有する校長・教員のOBや少年非行に見識の深い警察官OBをチームに加えることも考えられます。

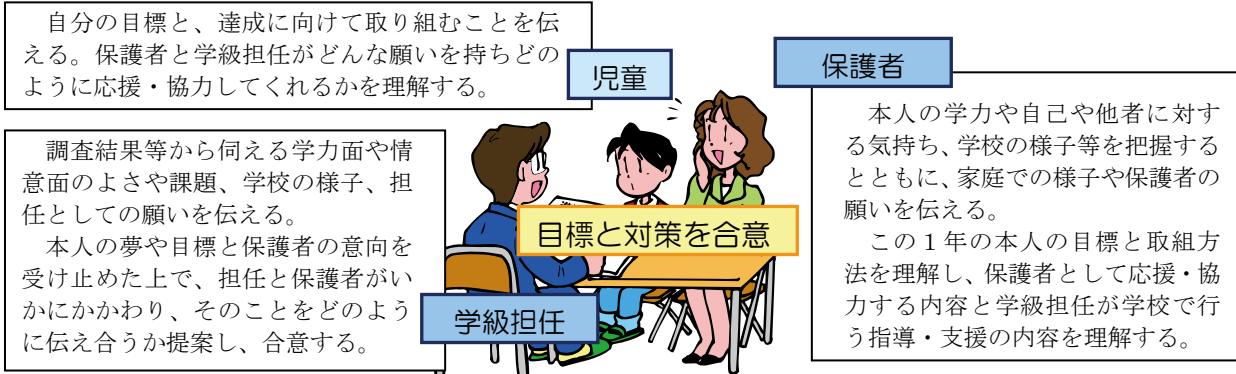
また、日ごろから、警察署や少年育成センター等の刑事司法機関、児童相談所など福祉関係機関、教育センター等の教育相談機関との連携を図っておくことも大切です。

### 【具体的な実践事例】

- 学級担任と保護者が指導の方向やかかわり方を共通理解できるように、懇談会等の持ち方を工夫する
- 生徒指導上の課題を抱える児童に対して支援を行うチームのメンバーにスクールカウンセラー等を加える

## 実践事例①：児童・保護者・担任が連携する

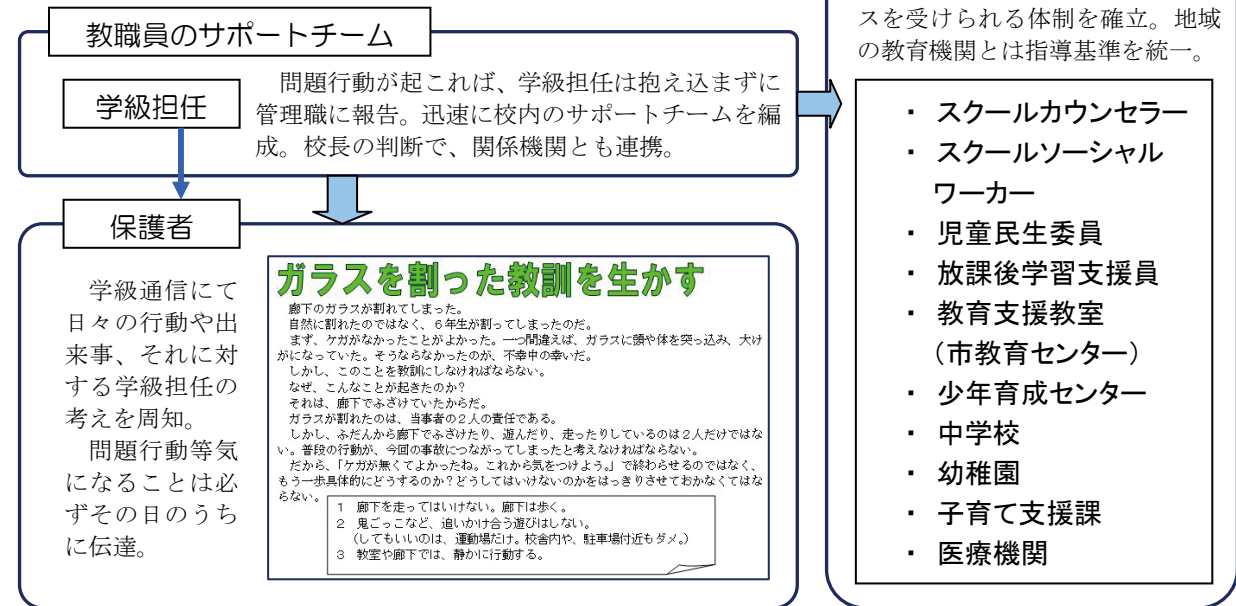
ある学校では、これまで以上に保護者との連携を強め、児童、保護者、学級担任の三者が一つのチームとして、児童の成長にかかわっています。例えば、年度初めの家庭訪問は、自己紹介の場だけでなく、三者が目標と達成のための方策を話し合う場として位置付けています。



三者が力を合わせて取り組むことで目標に達することができた児童は、達成感を味わい、自信を深め、さらに前向きに物事に取り組めるようになります。

## 実践事例②：役割連携を図った相談体制を整備する

ある学校では、教職員のサポートチーム・保護者・関係機関が連携し、児童への指導の在り方の共通理解に努めています。体制の確立に伴い、学級担任は自信をもって迅速に対応できるようになっています。



## 効果を上げるためのチェックポイント

### ○ 日ごろから情報と願いの共有に努める

何か問題が起きたときだけ学校から連絡がある。連絡や情報交換で終わってしまう。ややもするとこのような連携に留まってしまふことがあります。日ごろから互いの意思の疎通を図り、各機関が一体となって取り組んでいく行動連携の考え方が大切です。